

市立秋田総合病院改築基本設計図書

- 概要版 -

平成 30 年 5 月

久米・村田設計共同企業体

I 計画概要

1	設計の基本方針	
	1-1. 敷地概要・建築概要・位置図	1
	1-2. 設計説明	2
	1-3. 設計コンセプト	3

II 建築計画

1	建築計画概要	
	1-1. 配置計画	4
	1-2. 建物構成計画	5
	1-3. 平面構成計画	6
	1-4. 断面構成計画	10
2	ユニバーサルデザイン計画	
	2-1. ユニバーサルデザイン計画	11
3	防災計画・環境計画	
	3-1. 災害対応の考え方	14
	3-2. 環境配慮の考え方	15
4	仮設計画	
	4-1. 仮設計画概要（工事ステップ）	16

III 構造計画

1	構造計画概要	
	1-1. 基本方針および目標性能	18

IV 機械設備計画

1	空気調和設備計画概要	
	1-1. 基本方針	
	1-2. 設備概要	20
2	給排水衛生設備計画概要	
	2-1. 基本方針	
	2-2. 設備概要	21

V 電気設備計画

1	電気設備計画概要	
	1-1. 基本方針	
	1-2. 設備概要	22

VI 事業スケジュール

	1-1. 概略工事工程表	23
--	--------------	----

VII 附録

	イメージパース	24
--	---------	----

I 計画概要

1 設計の基本方針

1- 1. 敷地概要・建築概要・位置図

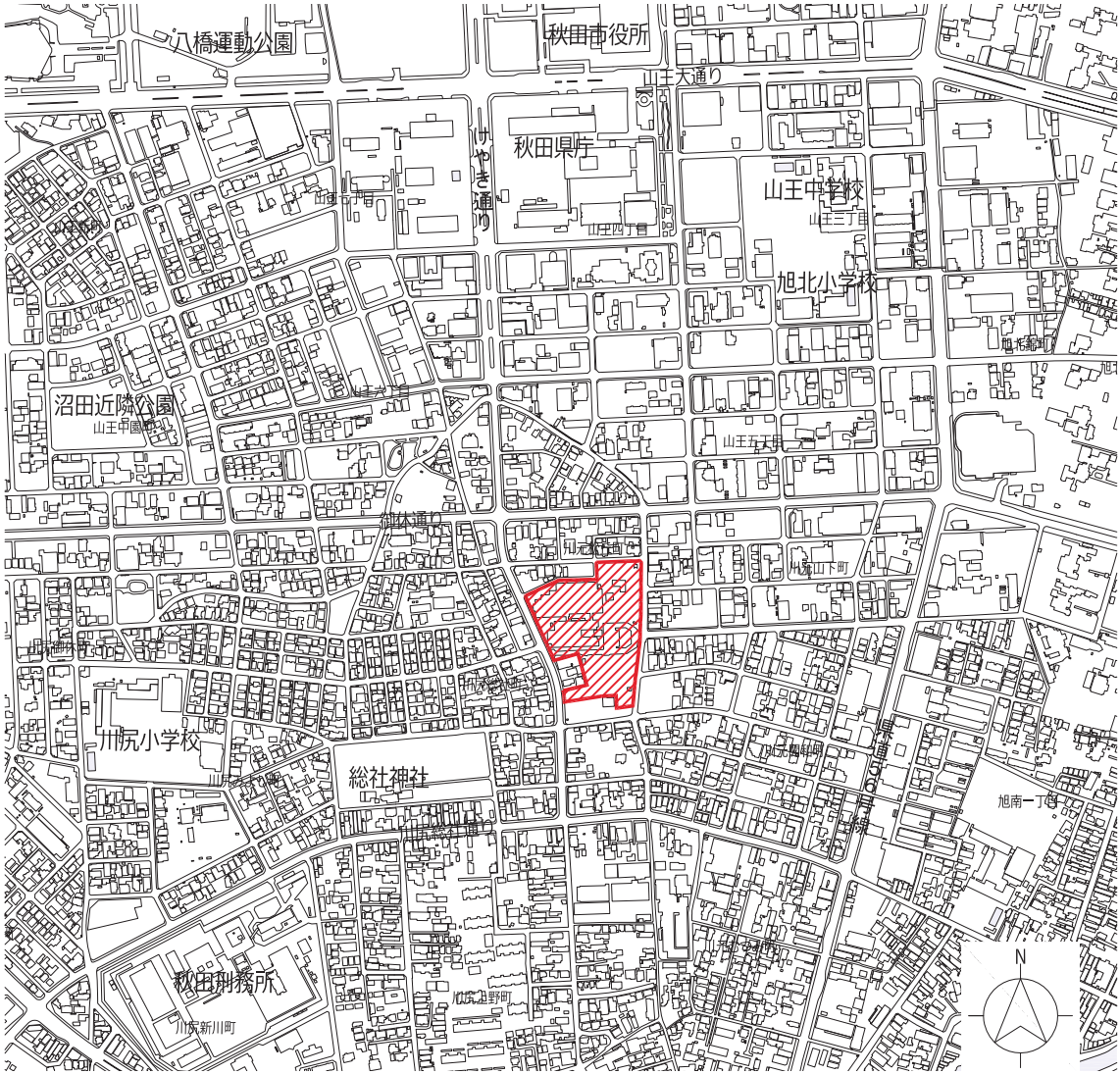
(1) 敷地概要

- 地名地番秋田市川元松丘町 39 番、51 番、57 番、58 番、61 番、66 番 1、68 番 1、68 番 2
- 敷地面積約 2 0, 1 0 0㎡
- 都市計画区域市街化区域
- 用途地域第一種住居地域 建ぺい率 6 0 % 容積率 2 0 0 %
- 防火地域等準防火地域
- 日影規制5 時間・3 時間 / 4.0 m
- 周辺道路西側：市道川尻八橋線 幅員 約 1 5 m
東側：市道川元山下町 1 号線 幅員 約 8 ～ 9 m

(2) 建築概要

- 施設名称市立秋田総合病院
- 施設用途病院
- 延べ面積医療棟：約 2 8, 0 0 0㎡
医療支援棟：約 4, 0 0 0㎡
立体駐車場：約 4, 0 0 0㎡（1 8 6 台）
- 階数医療棟：地上 1 2 階 P H 1 階
医療支援棟：地上 5 階
立体駐車場：2 層 3 段
- 構造種別医療棟：免震構造（Ⅰ 類相当）（S R C 造、一部 S 造）
医療支援棟：耐震構造（Ⅰ 類）（S R C 造、一部 S 造）
立体駐車場：耐震構造（Ⅲ 類）（S 造）
- 最高高さ約 5 7. 5 0 m（医療棟）
- その他附属棟（車庫、倉庫）、平面駐車場（1 8 1 台）、駐輪場（2 1 0 台）

(3) 位置図



1 - 2. 設計説明

（１）市立秋田総合病院の理念

『すべては患者さんの笑顔のために』

市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けます。

（２）市立秋田総合病院の基本方針

- 常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院として多様化する医療への要望に応えます。
- 患者さんの権利や意思を十分に尊重し、診療情報の提供による相互理解に基づく医療を行います。
- 医療の安全のさらなる向上に努め、患者さんが安心できる医療を行います。
- 職員にとって働きがいのある就労環境の整備に努め、質の高い医療人を育成します。
- 業務の改善と効率的な運営に努め、健全で安定した経営基盤を確立します。

（３）整備方針

ア 患者さんの笑顔のための施設整備

「秋田市バリアフリー基本構想」およびエイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現に向け、高度な機能を有する急性期病院でありながら、癒しやくつろぎを提供できる環境を整備し、すべての患者さんにとって利用しやすい施設とします。

イ 人が育つ働きがいのある施設整備

多様な機能を効果的に発揮するため、関連する部門の近接性やつながり、人や物の流れを考慮した業務効率の向上を図る部門配置を行い療養環境の整備と業務効率性を高めるとともに、患者動線と職員動線が交錯しないよう配慮します。また、より高い医療水準を維持するため、診療に専念できる職場環境を整備し、優秀な医療従事者の安定的な確保と、人が育つ環境整備に努めます。

ウ 多様化する医療の変化に対応可能な施設整備

医療制度や医療技術の変化に合わせて柔軟な対応が求められるため、柱割の長スパン化や間仕切り壁の乾式化など、フレキシビリティを確保した施設整備を行います。

エ 経営の視点を考慮した施設整備

新病院建設に伴う将来の経営負担を軽減するため、建設コストの低減を図ります。また、長寿命化を図る構造計画や省エネルギー設備の採用など、ライフサイクルコスト削減のための計画的な初期投資についても検討します。

オ 地球環境に配慮した施設整備

地下水や太陽光等の自然エネルギーの有効活用、二酸化炭素の排出量の抑制など地球環境にやさしい施設整備を進めます。

（４）病床数

396 床

（５）診療科

呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、血液・腎臓内科、糖尿病・代謝内科、外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、乳腺・内分泌外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、救急科、歯科口腔外科、総合診療科（院内標榜）／ 計 27 科

（６）設計留意事項

- 電波伝搬障害区域に該当するが、建物の配置により電波ルートを避けた計画とする。
- 北西からの風雪対策として、西側ロータリー廻りの通路に雁木を設置する。
- 敷地内はスロープのない計画とし、安全な通路を確保する。
- 車両動線、歩行者の安全に考慮し、通路には融雪設備を検討する。
- 患者の診察や検査を行う場所は、個室を基本としてプライバシーに配慮する。
- 会議室の集約化や、事務職員と看護職員が相互互助しやすい事務スペースの設置、関連部門の隣接配置により部門間の連携がしやすい計画とする。
- 低層階は防汚性のある外装材、病棟階は耐候性のある外装材の選定を行う。
- 内装材は、リノリウムなどの耐久性のある自然素材をできるだけ採用する。
- 免震構造の医療棟と耐震構造の医療支援棟に分け、機能性に応じた構造種別を選定し、コスト縮減と工期短縮を図る。
- 周辺環境への影響を考慮し、現病院解体時において、既存地下躯体を擁壁として存置・利用することでコスト縮減と工期短縮を図る。
- 路盤の再生砕石、屋外デッキの人工木材、既存樹木の家具等への再生など、リサイクル建材をコスト、機能性を考慮した上で採用する。
- 外部材料には、耐塩害性の高い材料を採用する。
- 病棟階は低層階よりセットバックし、落雪対策を行う。

1- 3. 設計コンセプト

(1) はじめに

近年の急速な少子高齢化や医療需要の増加を背景に、地域の中核病院に求められる機能はより高度化、複雑化が進んでおり、今後さらにその傾向は強まるものと想定している。医療制度の変化や先進医療技術の進歩と共に求められる < ハード > としての変化への対応、昨今頻発する自然災害を踏まえた持続性の高い堅牢な建築的対応、そして何よりも『すべては患者さんの笑顔のために』という理念の具現化に向けた対応が設計に求められている。

基本設計においては、「市立秋田総合病院改築基本構想」に掲げられた整備方針を踏まえ、新たな病院が果たすべき機能を具現化し、患者・家族を含め、すべての方が笑顔になれる環境の実現に向けた設計コンセプトを構築する。

(2) 設計コンセプト

ア 患者や家族の「健康と長寿を支える」安全・安心の「とりで」となる病院

- 患者や家族の誰もが使いやすく、わかりやすい平面計画と、ユニバーサルな施設機能の実現
- 自然災害に備えた堅牢な施設機能による安定した医療機能継続力を備えた計画
- 心身の負担を軽減する快適な建築環境の実現

イ 超高齢社会における安全・安心な病棟と外来環境が整備された病院

- 看護がしやすい病棟環境の実現と、全てのベッドに窓がある快適な病室の整備
- 外来患者にとってわかりやすく負担の少ない診療・検査動線の実現
- 高齢者や支援が必要な来院者の目線に立った病棟や外来における機能・設備の充実

ウ 職種を超えた交流を生み出し、「人を育てる」学びの場と「働き甲斐のある」病院

- 院内で働く職員の働きやすさに配慮した業務効率の高い機能的な部門計画
- 職員エリアを集約し、職域を超えたコミュニケーションを誘発する快適な環境の整備
- 研修や教育のための施設機能充実による職員の学びの場の創出



エ 医療の変化に追従しやすい構造・設備を備えた、機器更新・内部改修がしやすい病院

- 将来の平面プラン変更が容易で自由度が高い構造骨格の採用
- 設備機械スペースの集約や将来更新用スペースの確保による設備更新や改修が容易となる施設づくり
- 大型医療機器の更新や導入を想定した平面計画の実現

オ 「医療の質」を落とさない合理的なライフサイクルコスト低減を図った病院

- 免震構造の医療棟と耐震構造の医療支援棟の2棟構成による合理的なコスト削減と工期短縮の実現
- 窓面積の適正化等による空調負荷の低減
- 光熱水費を抑える設備機器の導入によるランニングコストの低減

カ 秋田の地域環境に適應する環境共生型の病院

- 自然エネルギーの活用と省 CO₂ 技術の採用による環境対策の実施
- 秋田市の気候特性を踏まえた風対策や降雪による負荷を軽減する建築設備の導入
- 既存樹木の活用や県産材の活用による温かみのある内外観の実現